

令和7年度「地域とともにある小中一貫教育」に関する自己評価書（前期）

鬼北町立日吉小・中学校

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			（小）	（中）		
小中一貫教育	義務教育9年間の一貫した指導による教育の質の保証・向上	① 乗り入れ授業やICT活用等により、児童生徒の学力の向上を図る。	B	A	ICT機器を活用した授業実践を行うことで学力の向上を目指している。読書習慣については向上してきたものの、家庭学習の充実に向けては改善が必要である。	教員の専門性を生かした授業を行うことができてい。小学校と中学校で共通の目標を立て、共通実践を行っている。今後も継続し、書く活動を取り入れながら表現力の育成に取り組む。
		② 小中合同行事を実施することにより、小中学生の交流の場をつくる。	A	A	小中連携行事を計画的に実施し、効果的な交流ができた。児童・生徒の思いやりの心が育っている。	今後も児童会・生徒会を中心に改善を加えながら、より深い交流ができるような行事や交流活動を行う。
		③ 9年間を見通した系統的なカリキュラムによって「郷土学」を実施する。	A	A	地域コーディネーターのおかげで、地域の方々の協力を得ることができ、児童・生徒が地域を知るための多様な学習を実施することができた。	地域コーディネーターを活用し、今後も充実した「郷土学」を計画的に展開していく。また、変更や改善を加えながら、ふるさと日吉を愛する心を育てていく。
	学校運営協議会委員の所見	○ICTを取り入れた学習は大変進んできていると思う。それに伴い、自分で書いたり、調べたりといった活動が減っていないか。 ○ICT活用と書く・読む活動のバランスをとりながら、子供たちに健康的なよりよい学習指導をお願いしたい。 ○小中合同の行事は、日吉地区ならではの行事である。この機会を活用し、思いやりのある児童生徒を育ててほしい。 ○「郷土学」はふるさと日吉・鬼北に愛着を持つよい機会となっている。今後も多様な学習を工夫して展開してほしい。 ○9年間という長時間でじっくりと取り組むことができてよいと思う。個をしっかりと見つけ、個性に応じた指導が続くように願う。			学校の対応	○ICTを取り入れた学習が進んできている。生成AIの活用や、個人情報、著作権についての指導を行いながら、アナログとのベストミックスさせる授業を今後も展開していく。 ○小中合同の行事が交流だけに留まることなく、互いの思いにも触れられるようなものへと深化させていく。 ○「郷土学」についての学びを教師自身も行い、ふるさと日吉の良さを児童生徒に伝えていけるようにする。

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			(小)	(中)		
コミュニティ・スクール	地域に開かれ信頼される学校づくり	④ 学校運営協議会での意見を学校教育に反映する。	A	A	小中で連携を図りながら、委員からの意見を参考にし、取り入れられることから実行していくように心掛けている。	今後も、学校運営協議会でいただいた意見を、学校教育に反映していく。
		⑤ 学校教育の実態を把握できるよう、学校運営協議会委員に教育活動を公開する。	A	A	6月の参観日・教育懇談会の案内を、全戸配布するなど、学校行事等の案内を積極的に行うことができた。	多くの教育活動を公開することで、気軽に参観できる雰囲気づくりに努める。
		⑥ 教育活動の状況について地域住民に情報提供を行う。	A	A	学校だよりの全戸配付やホームページの更新を行いながら、内容の充実も図った。また、ケーブルテレビを活用した情報発信も積極的に行った。	今後も、学校だよりやホームページ、ケーブルテレビ等を活用しながら、情報の発信を行っていく。
	学校運営協議会委員の所見	○地域住民への情報提供は、十分できていて、地域住民もよく見聞きしていると感じている。 ○様々なメディアを通じて、子供たちや学校の様子が分かって良い。学校の思いや取組を理解する良い機会になるので今後も続けてほしい。 ○児童、生徒が少人数でも、先生方の熱心に工夫された授業や、元気に楽しく学習に取り組んでいる姿を、地域の方々にも参観の機会が増えればと思う。			学校の対応	○学校運営協議会でいただいた意見を参考にしながら、さらに効果的な教育活動が展開できるようにする。 ○今後もホームページやケーブルテレビ、各種通信等を活用しながら、日吉地区全体に情報発信を積極的に行っていく。 ○各種行事への参加方法を見直し、地域への案内を積極的に行う。

分野	目的	目標（評価指標）	評価		評価資料の分析	考察及び改善策
			(小)	(中)		
地域 学校 協働 本部	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制づくり	⑦ 地域ボランティアの方による学校支援活動を実施する。	A	A	総合的な学習の時間、郷土学、生活科などで、見守り隊や放課後子ども教室など、多くの方の協力を得ることができた。	今後も地域コーディネーターと連携し、関係機関等に働き掛けながら、支援活動の充実と地域人材の発掘に努める。
		⑧ 学校支援の状況について、地域住民に情報提供を行う。	A	A	ホームページ、学校だよりやボランティア通信、ケーブルテレビ等で地域に情報提供を行うことができた。	様々なメディアを活用し、今後も、情報を素早く正確に提供できるように努める。
		⑨ 地域コーディネーターが、主体的かつ効果的に活動できるようにする。	A	A	地域コーディネーターと学校行事に関する情報共有を行い、計画的に準備や調整を行うことができた。	学校行事等の計画を地域コーディネーターと綿密に協議し、効果的な学習ができるように準備・活動できるようにする。
	学校運営協議会委員の所見	○地域ボランティアの方々のおかげで、有意義な教育活動が行えている。感謝の気持ちを持ちながら、積極的に取り組んでほしい。 ○地域コーディネーターの働きにより、多種多様な地域ボランティアの支援を受けることができ、活動が充実している。 ○地域コーディネーターの協力で、地域の方々とのいろいろな体験学習ができ感謝したい。			学校の対応	○地域ボランティアの方々との情報交換をしっかりと行いながら、ボランティアの方の思いが伝わる活動になるようにする。また、それらを通信等で地域にも発信していく。 ○公民館や各種団体との連携や役割分担について見直しを行いながら、継続可能な活動になるようにする。 ○情報提供を積極的に行うことで、地域の方々に日吉小中学校への関心を高めていく。